

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

<1988年7月9日創刊>
 発行2016年10月1日 <毎月1日発行>
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 eメールshiga.minken@gmail.com
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

脱原発市民運動と学校教育

野口 宏

原発ゼロをめざす湖西ネット代表世話人
元関西大学教授



福島第一原発事故以来、全国で脱原発に向け市民が立ち上がりました。市民運動が持続的に展開していること、活発な学習運動を伴っていること、市民運動が先導して既成の運動が合流したこと、戦争法に反対する市民運動の先駆的役割を担ったこと、など日本の社会運動史上かつてない地平を切り開きました。

若狭湾原発に隣接する滋賀県でも多彩な市民運動が行われていますが、びわ湖の放射能汚染に対する危機感を共有しているのが特徴です。当初、市民は日本の電力の3割を占める原発の全廃を叫ぶのには躊躇がありました。でも2012年の夏に原発が全く稼働しなくても電気は足りていたことが分かると、市民は原発再稼働反対に自信を持ちました。

市民運動は行政にも影響を与え、滋賀県の県政は及び腰とはいえ、他府県に比べて原発問題に積極的な姿勢を示してきました。

しかし課題も少なくありません。とりわけ他県に比べて脱原発の市民

運動への参加者に若い層が少なく、中高齢層に偏っているように感じます。若者や学生や高校生にどうアプローチしたら良いか、工夫しているつもりですが、まだまだ不十分です。先日、高校における原発問題の授業実践について聞く機会がありました。原発への賛否を考えさせる授業のようですが、考えさせられたのは、教科書や教材がもっぱら国のエネルギー政策からの視点に終始し、原発の危険性にほとんど触れていないように思われたことです。

エネルギー問題も大切ですが、私たち市民運動が重視しているのは、何よりも地域の生活の問題であり、そこに目を向けることが大切だと思います。私たちの大切な宝であるびわ湖が放射能に汚染されれば、近江の故郷は終わりだと言っても過言ではありません。

問題は放射能による地域の環境汚染であり、それによる健康被害なのです。重大事故が起これば住民は放射能から身を守るため、すぐに避難

しなければならず、ただちに安定ヨウ素剤を服用して甲状腺がんを防がねばなりません。
 使用済み核燃料の廃棄の困難さも、放射能の健康被害を知ることによって、はじめて理解されることです。その点が深められないと、原発問題とは何のことか分からないと思います。

私たちは「原発といのちを考える」というパンフを作って普及しています。内容は「原発と事故」「放射線と健康」「原子力政策」と広い視点から16項目のトピックを基に編集したものです。こうした市民運動が生み出したパンフを、中学生・高校生が考えるための素材として役立てていただけないでしょうか。

(のぐち ひろし)

《 今月の紙面 》

- ・脱原発市民運動と学校教育 / 野口 宏 …P1
- ・戦争展 in 湖東 / 村川 英幸 …P2, 3
- ・戦後滋賀の学校史～原点から展望する～ / 木全 清博 …P4, 5, 6
- ・今、学校で・・・「はじめに子どもありき」を教育活動の柱に / 斎藤 隆心 …P7
- ・滋賀の教育動向 7・8月 …P8